

## 日本における社会的排除の実態とその要因

阿部彩 (2007) 『季刊・社会保障研究』 43(1), pp27-40

本論文での目的は主に2つある。1つ目は日本における社会的排除とはどのようなものか、どのような人が排除されているか、またどの分野での排除が起きており、その深刻度を把握すること。そして、2つ目は社会的排除の諸側面がどのように関係しているかの分析。最後に、社会的排除研究の今後の方向性と展望を述べている。

本論文での、データは以下の2点を満たしているものが望ましく、

1、社会的排除の指標に欠かせないものを網羅し、それぞれの次元において複数の項目がある。

2、欠如や脱落の事実のみでなく、それが強制されたものか判定できる設問

この2点を満たしている、2006年の社会生活に関する実態調査を用いている。

そして、社会的排除指標の次元として以下7つある。基本ニーズの不備、物質的な剥奪、制度からの排除、社会関係の欠如、不適切な住環境、社会参加の欠如、主観的判断。

この多次元の指標を用いることで、従来の1次元の貧困指標より、多次元の事象を包括できている。

社会的排除に影響する要因は、排除の次元により異なる。しかし、従来の貧困像に当てはまらない人も、社会的排除の確率は高い。

そして、ライフコースにおける、離婚、怪我病気、失業、15歳時の経済状況等の、過去の不利な出来事が、社会的排除に結びつく可能性が高い。そして、最後に低所得が、社会的排除に必ずしも当てはまるわけではないこと。

日本における社会的排除の概念が曖昧であるとされている。その理由として、社会的排除の実態を把握することが難しい。

そのため、日本の社会的排除の計量分析は始まったばかりで、本論文はその初期の成果として、社会調査を用いた社会的排除指標の構築と計量の試みを紹介している。